

# 米原市消防団組織の再編



# 748人を566人へ24.3%減

## 米原市民報

日本共産党米原市議員  
山脇正孝 Tel.52-1093  
日本共産党米原市議員  
藤田正雄 Tel.55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

2月7日に開催され議会の委員会協議会で令和7年度からの消防団再編計画(案)が説明されました。今後米原市の生産年齢人口が減少することから消防団の担い手不足に対応するためとしています。しかし本年1月1日起きた能登半島地震に見られるように過疎地域の消防力・防災力の不足は明らかです。大きな災害では地域の総合的な防災力が欠かせません。そのような点について考えてみました。

### 説明された組織再編計画案

米原市防災危機管理課より米原市消防団組織再編計画案が次のように説明されました。自治会等にはすでに説明済みとのことです。

### 再編方針の概要は

将来の生産年齢人口の減少を見据えて、団員確保が可能な人数まで定数を見直す必要があることから現状の実団員数748人(定数862人)から566人に約24.3%減員となります。なお、技術の継承ができるように、減員期間は令和6年度から令和8年度までとします。

団員の減少による消防力の低下を防ぐために複数の班を合併することとし現状の94班から35班に統合します。これにより、各班の人員を増加させ、火災時などの人員体制を確実なものにします。

さらに、班の合併に伴い分団の見直しを行い活動範囲の広域化による体制強化を行います。班や分団の合併による新体制への移行は令和7年4月1日からとします。

### 分団・班の名称は

単純明快かつ規則的な名称にすることにより、組織

的な活動を実施します。

- ・ 山東方面隊第1～3分団 第1～9班
- ・ 伊吹方面隊第1・2分団 第10～16班
- ・ 米原方面隊第1・2分団 第17～26班
- ・ 近江方面隊第1・2分団 第27～32班
- ・ 女性消防班

#### 【現状】

- 米原市消防団 4方面隊13分団
- ・ 94班 862人(定数)
- ・ ポンプ車12台 748人(実数)
- ・ 積載車72台
- ・ 小型ポンプ85台

#### 【再編後】

- 米原市消防団 4方面隊 9分団
- ・ 33班 566人(定数)
- ・ ポンプ車12台
- ・ 積載車21台
- ・ 小型ポンプ21台

### 地域防災力強化につながるが

今回の再編方針についていくつかの点について問題を考えてみました。

第1には、今回の組織再編が消防団強化につながるのかという問題です。全体

として実人数が減り、今までの消防団がなかった新興自治会にも定数が割り当てられていますが、自治会の協力が得られるか未定です。

第2には、今まで自治会単位であった班が、広域化するため、実情の異なる地域の中で活動することになります。新興住宅地と旧来の自治会との関係などうまく交流が図れるのか不安を訴えられる方もおられます。第2には可搬式小型ポンプや積載車の多くが消防団管理でなくなることから緊急車両の登録もなくなります。自治会管理が可能とされていますが、いつまで維持できるか分かりません。能登半島地震のような大規模災害に対応するためには自治会ぐるみの防災力強化が必要と言われていますが、自治会と消防団との連携が弱くなることも想定されます。以上のような点が心配されます。

左のQRコードは再編案として配布された班編成の資料です。



**雑感** 能登半島地震では昨日現在241人がなくなり、避難者は1万4千人、被災家屋が5万7千戸という苦難にあえいでいる現状で、国会での自民党裏金問題の議論を聞いていると、今の政治の異常さが明らかで怒りがわいてきます。何よりも国会は法律を作る所です。しかし自民党の多くの議員は自分たちが作った法律を守らない、守る気がない。またその議員は、その責任を事務担当者に押し付け自分はそのうとうと議員を続けている。そんな無責任極まりない議員に支配されているのが、日本の政治です。そのような政權は「アメリカいいなり」「財界中心」の政治が行われており、国民の苦悩について無関心であることは明らかです。また選挙に勝てば何事も許されることかをくくっている。安倍政權の時代がそうであったように。その悪事を国民の前で明らかにしてきたのが日本共産党です。「桜を見る会」しかり、今回の「裏金問題」しかりです。われわれに出来ることは、このような現在の政權の悪事を忘れずに、選挙に行き、このような自公政權を打ち倒す為の一票を行使することです。次の選挙では、野党の統一で政權交代実現。その為には日本共産党の躍進が必要でです。